



改造前の本体位置
(青の破線)

トライポールの角度調整だけで
重心位置を変えると、前屈み
になってしまう。(黄の破線)

高さ調整機構だけでは
調整しきれなかったため、
約20mmカットした。

改造型は重心の位置が後方にスレるため
まずは単純にトライポールの角度を調整してみた。
そのままでは前屈みの状態になるため、
ベアリング部機構を使い長さ調整を試みたが、
それだけでは水平を保持できないことが判明。
結果的に前2本のポール受けにソルボセインを
詰めて嵩上げたうえで、ベアリング部のシャフトを
20mmカットして前屈みを補正した。
これにより、支持シャフトの鉛直性が確保できた。